

令和7年度 第1回 仙台市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会 議事録

1 日時 令和7年7月24日（木）午前10時00分～午前11時25分

2 場所 仙台市役所本庁舎8階 第一委員会室

3 出席者

[地域福祉専門分科会委員] 12名（委員定数18名）

青木ユカリ委員 阿部重樹委員 阿部裕二委員 伊丹さち子委員 大内修道委員
小川登委員 佐々木洋委員 庄子清典委員 傳野貞雄委員 中田年哉委員
谷津尚美委員 渡邊礼子委員
（五十音順）

※欠席委員：高野章子委員、立岡学委員、釣舟晴一委員、三浦啓伸委員、村山くみ委員、渡邊純一委員

[事務局]

○健康福祉局 大槻地域福祉部長 庄子参事兼地域包括ケア推進課長
千代谷総務課長 高橋社会課長
坂井障害企画課長 穴戸障害者支援課長
小笠原高齢企画課長

○こども若者局 木明総務課長

[オブザーバー]

○仙台市社会福祉協議会より2名

4 次第 (1) 開会

(2) 委員及び事務局員紹介

(3) 議事1 分科会会長及び副会長の選任について

(4) 議事2 次期「（仮称）せんだい支えあいのまち推進プラン」策定に係る市民アンケート調査の実施について

(5) その他

(6) 閉会

5 内容

(1) 開会

(2) 委員及び事務局員紹介

(3) 出席状況の報告

- ・ 6名の委員が都合により欠席される旨を報告
- ・ 過半数の委員の出席により、定足数を満たしていることを報告

(4) 議事

議事1 分科会会長及び副会長の選任について

- ・ 仙台市社会福祉審議会運営要領第3条第3項の規定により、会長は委員の互選により選任し、副会長は会長の指名にて選任することを確認。
- ・ 佐々木洋委員が阿部重樹委員を会長に推薦。異議なく、阿部重樹委員を会長に選任。
- ・ 阿部会長により阿部裕二委員を副会長に指名。
- ・ 議事録署名人は、会長と、他1名については中田委員に依頼→中田委員承諾。

議事 2 次期「(仮称) せんだい支えあいのまち推進プラン」策定に係る市

民アンケート調査の実施について

○社会課長

〈資料 1、資料 2 に基づいて説明〉

〈質疑応答〉

○佐々木委員

地域の範囲が共通の認識に立つのだろうかという懸念がある。町内会を地域と捉えるのか、小学校区・中学校区を地域と捉えるのか、受け手によって認識が異なるのではないかと。

また、問 22 に関して、前回アンケートでは、選択肢 6 に「町内会・自治会の役員、福祉委員など地域の活動者」、選択肢 9 に「地区の民生委員児童委員」という言葉があった。非常に具体的だったが、それらが今回アンケート（案）では選択肢 8「その他」に集約されており、地域福祉を担う立場からすると、民生委員児童委員等は「その他」でなく、設問の中に入れて欲しいという思いがある。検討いただきたい。

○社会課長

地域の範囲について、事務局では概ね中学校区程度の生活圏域を想定していた。確かに捉え方は様々あると思うが、回答される方が身近な地域と考える範囲で回答いただければと思っている。

また、アンケート全体について、前は選択肢が非常に多い設問もあったことから、今回の設計に当たっては、回答される方の負担軽減のため、全体的に選択肢数を調整した。問 22 についても、前回アンケートで回答が多かった選択肢を残すという調整の中で、とても悩んだところではあったが民生委員を削除した。しかし、ただいまご意見をいただいたところであり、再度選択肢に加えることも検討したい。

○阿部会長

問 22 については、選択肢として復活させる方向で再検討していただきたい。

また、地域の捉え方に関しては、アンケートの冒頭に地域の範囲を示した方がよいのではないかと。地域包括ケアシステムでは概ね中学校区と言われているが、地域について様々な捉え方がある中で、アンケートに答えていただく方が必ずしもそれを理解しているとは限らず、回答するにあたって戸惑うこともあるかと思う。

○阿部副会長

問 10 に、「お住まいの地域（おおむね町内会～中学校区）」と記載されているため、ここでの地域は、おおむね町内会～中学校区を想定しているということが前提にあると全体統一されるのではないかと。

○阿部会長

アンケートの冒頭に可能であれば記載していただければと思う。検討願いたい。

○社会課長

検討する。

○伊丹委員

アンケートの対象年齢が 16 歳以上となっているため、選択肢を削ると、正しい回答が得られないのではないかと感じた。削った選択肢を復活させるなど、全体的に見直しを行ってほしい。

また、アンケート対象者は最年少だと高校生になるが、用語の説明がないと回答は困難なのではないか。例えば、中学校区という言葉は 16 歳の高校生は調べなければ分からないだろう。他にも難しいと感じるところが多くあった。例えば、今回アンケート（案）の間 16 の選択肢 4「市・区役所の行政機関の窓口や保健や福祉の専門機関」とあるが、注釈を加えなければ正しい回答は得られないと感じた。市民の方が、理解をした上で回答いただくことが望ましいと思うため、もう一度見直しを行っていただきたい。

○阿部会長

質問や選択肢の理解を促すような言葉があればということによろしいか。例えば、アスタリスクや米印を付けて、用語の説明や具体的な団体や専門機関の存在を分かっていたかどうかという配慮が必要ではないか。アンケートに回答いただくせっかくの機会であるため、ご理解いただくという狙いも合わせてもったらいと思う。積極的に検討いただきたい。

○渡邊委員

関連して問 22 について、最近は詐欺等も増えているため、選択肢に交番も加えてはどうか。また、選択肢 1 は、「家族」だけではなく、「家族・親戚」にした方がよいのではないか。併せて、私も民生委員は選択肢を独立させたほうがよいのではないかと思う。

○阿部会長

交番や親戚という言葉を追加した方がいいのではないかというご意見だった。検討願いたい。

○谷津委員

保護司の立場からすると、今回アンケート（案）に再犯防止の項目が追加されているのはとても意味のあることだと感じている。1 点、今回のアンケート調査には、外国人の方も対象となっているのか確認したい。最近は外国人の方も増えており、その方たちが仙台は暮らしやすいと感じているのか、地域の一員として参画しているのか、何かあった際に誰かに相談できるのか等も調査が必要と思う。

○阿部会長

多文化共生という面ではどうか。

○社会課長

外国人の方も今回のアンケート調査の対象となっている。今回アンケート（案）を作成するにあたって、外国籍の方を把握しなくて良いのかという議論はあった。しかし、その質問を設ける際に、国籍以外にも、生まれや現在の国籍、さらには両親の国籍など、設問を複数設けなければ把握しづらい状況であり、全体の質問のバランスが偏ることを懸念したところであった。委員の皆様にもご意見いただきたい。

○阿部会長

確認だが、他に仙台市として多文化共生関係の実態把握のためのアンケート調査は実施されていないのか。

○社会課長

正確には申し上げられないが、今年度、文化観光局あたりで外国人を対象としたアンケートを実施する予定だったと認識している。

○佐々木委員

文化観光局ではなくまちづくり政策局で、現在、アンケートを実施している。9 月には概要が速報値で出ると伺っている。今回のアンケートの中で、外国籍の方についての質問を設けるのか、まちづくり政策局で実施したアンケートのデータをいただいて検討の俎上に載せるのか、アンケート内容を精査して検討する必要があるのではないかと考える。

○阿部会長

まちづくり政策局で現在アンケートを実施しているとのこと。外国人の方が、仙台市全体の人口に対して何％を占めているのか、また、地域毎の割合はどうかといった量的な把握と同時に、地域との交流の有無や生活のしづらさ等に対してどの様な支援が必要かといった質問項目が含まれているか確認をお願いしたい。せんだい支え合いのまち推進プランに援用できるものは援用してはどうかという提案だが、この点に関しては本分科会として異議がなければそのようにさせていただきたいが、よろしいか。

○谷津委員

外国人の方に向けたアンケートはそれでよいと思う。加えて、地域住民側の意識を確認するような設問があってもよいのではないか。

○阿部会長

こちらについても、まちづくり政策局のアンケート項目に含まれているか確認いただきたい。多文化共生をどのように進めるか、といった視点のアンケートは実施しているのか。

○社会課長

まちづくり政策局のアンケートの対象は外国人と認識している。地域住民側の視点のアンケートの有無について確認の上、本アンケートでの取り扱いについて検討する。

○阿部会長

確認をお願いしたい。現在は「せんだい支えあいのまち推進プラン」となっているが、元々は地域保健福祉計画という名称で始まり、公助・自助・共助・互助といった地域福祉を主体としたものであった。現行の計画からは、市町村地域福祉計画と市町村成年後見制度利用促進基本計画、地方再犯防止推進計画を一体の計画として策定した経緯があり、谷津委員から指摘があった外国人の方との地域社会における共生という視点はこれまでにはなかった。貴重な意見をいただいたと思う。

○青木委員

冒頭で、今回のアンケートの対象者は 16 歳以上で、5,000 名を無作為抽出するという説明があったが、年齢や居住地は均等に設定されるという理解でよろしいか。

○社会課長

男女比や居住地については案分した上での無作為抽出となっている。

○青木委員

前回の回答率はどれくらいか。

○社会課長

全体の有効回収率は 40%であった。

○青木委員

前回のアンケートで回答率の高かった選択肢を残したと説明があったかと思う。他の委員からも選択肢を少し詳しくという意見があったが、少し集約された設定になっていると感じる。逆に、傾向として前回と変わらない状況に読み取られる懸念がある。設問に応じて、可能な限り正確にイメージいただくために、選択肢を具体的に細かく設定をしていた方がよいケースもあるのではないかな。

また、多文化共生の関連で、孤独・孤立の観点からすると、外国の方々などの様な環境の中で暮らしているのか、読み取ることもできるのではないかなと思った。

今回はアンケート内容の検討とのことだが、計画の検討の際に、直接コミュニケーションをとるような形で、地域にお住まいの方へヒアリングを実施する機会を設けてもよいのではないかなと思う。

○社会課長

アンケートの他に直接お話を伺う場として、関係団体や当事者等へのヒアリングを予定している。また、こどもの意見を取り入れることに関しては、仙台こども財団で実施しているこども意見ひろばを活用することを検討している。加えて、仙台市社会福祉協議会と住民座談会を開催し、幅広く直接意見を伺う機会を設けていきたいと考えている。

○阿部会長

佐々木委員から補足はあるか。大前提として、仙台市は地域福祉計画、仙台市社会福祉協議会は地域福祉活動計画を策定しており、これらの計画は車の両輪で実施することとなっている。

○佐々木委員

社会福祉協議会としては毎年、各区支部事務所それぞれ 2 地区で住民座談会を開催し、意見交換を行っている。今年度も実施を予定しており、地域の課題をお互いに共有することに加え、令和 9 年度から始まる新計画に向けての情報収集の意味もある。また、事務局からもあったように、こどもの意見を取り入れることは大変重要であると考えている。仙台こども財団などで様々な取り組みが行われているため、我々も参加するなど、その結果をもって幅広く計画に反映していきたいと思う。

○阿部会長

社会福祉協議会の負担が増えるかもしれないが、今回いただいた意見を踏まえて新しいアンケート（案）を作った際に、プレテストの実施を検討してはどうか。この内容で回答可能か、理解が難しい箇所はないかといったことを第三者的から見ていただき、実際にアンケートを実施する方法もあると考える。検討いただきたい。

○伊丹委員

問 1～3 で性別や年齢、就業について尋ねているが、問い掛ける必要があるのか疑問に思う。様々なアンケートを見ると、特に年齢に関する設問がないものが多く、回答したくない方もいるのではないかな。

○社会課長

年齢について、年齢が高い方の回答割合が高く、年齢別に見なければ、年齢の高い方に寄った結果となる恐れがある。また、男女差については、例えば中高年男性の孤立防止という

ことも課題になっている中で、現状を把握するためには年齢や性別で分けてみなければならないということもある。

○阿部会長

年齢や性別に関する質問は一般的にフェイスシートと言い、その質問自体にあまり意味はない。質問項目によっては男女差を確認し、その偏りに応じて施策や対応策を考えるためにこの様な質問項目を置いている。委員の皆さんには、後にアンケート結果を踏まえて、様々な意見を審議いただくことになるが、クロス集計を行った結果を確認いただくこともあるかと思う。

○庄子委員

前回アンケートの集計結果は、どこで確認可能か教えてほしい。

また、問 10 はひきこもりに関する設問かと思うが、どの程度の割合の方がひきこもり状態であるという結果が出たのか。併せて、問 28 について、前回アンケートで回答が多かった選択肢を教えてほしい。

○社会課長

問 10 は外出頻度を尋ねたものである。6「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」については、「10 年以上」と回答した方が 33.5%、「5 年以上 10 年未満」が 22.8%、選択肢 7 の「自室からは出るが、家からは出ない」については、「10 年以上」と回答した方が 16.5%、「5 年以上 10 年未満」が 26.5%。選択肢 8「自室からほとんど出ない」については、「10 年以上」が 3.3%、「5 年以上 10 年未満」は 26.6%となっている。

問 28 で回答数が多かったものは、順に、選択肢 1「身近な場所に、相談できる窓口を増やす」が 41.6%。選択肢 2「保健や福祉についての情報が手に入りやすくする」が 36.2%。選択肢 3「助けや手伝いを必要とする人の希望に応えられるように様々なサービスを用意する」が 33%。同じく、選択肢 10「災害が起きた時に支援を必要とする人を地域で助け合う体制を作る」が 30%台となっている。

○阿部会長

問 10 について、どれ位の期間ひきこもり状態にあるかをお答えいただいたが、庄子委員の質問は、全体の中で何%の方がひきこもり傾向にあるかという質問であったと思う。

○社会課長

手持ちの資料では計算が必要なため、確認し、後日回答したい。

○地域福祉係長

前回のアンケート集計結果については、仙台市の HP に掲載されているため、確認いただきたい。

○渡邊委員

問 2 について、最近では 80 歳 100 歳までお元気な方が多くおり、80 歳以上でも地域貢献している方がいることから、選択肢を 75 歳～80 歳、80 歳以上まで加えてよいのではないかと。また、問 3 について、選択肢 5「専業主婦（主夫）」となっているが、例えば退職した方のうち、どのくらいの方が自分を「専業主婦（主夫）」だと思っているのかは疑問である。

○阿部会長

こちらに関しても、仙台市で実施している他のアンケート調査等でどの様に表現しているかを確認してはどうか。

また、冒頭に事務局より案内があったように、8月1日まで意見票を受け付けるようである。本日いただいたご意見を反映させた形で今回アンケート（案）を、委員の皆様にお示しいただくことは可能か。

○社会課長

承知した。内容を修正し、阿部会長とご相談の上、アンケート（案）を事前に皆様に送付したい。

○阿部会長

本日のご意見が反映されているか確認いただくとともに、新たにご意見、ご提案をいただく機会としたい。本日のところは、十分にご意見いただいたということにさせていただきたいが、よろしいか。

<委員承諾>

○阿部会長

皆様から様々なご意見やご質問、ご提案を含めて頂戴した。事務局からの説明の通り、頂いたご意見踏まえ事務局でアンケート（案）を修正し、私の方で確認の上、皆様にフィードバックさせていただく。事務局も、その様に理解いただきたいと思う。

(5) その他

○社会課長 <参考資料2に基づいて説明>

(6) 閉会